

わかば会誌

巻頭言

病院はブラック企業か？



石川県立中央病院
院長 山田 哲司

平成27年1月から建築が始まった新石川県立中央病院は、平成29年12月に完成しました。平成30年1月から新病院で業務を開始しますが、河北郡市医師会の先生方にも多数の患者さんご紹介をお願い申し上げます。新病院は、石川県における「地域医療の砦」として、入院患者さんは勿論、外来患者さんの利便性をも十分に考え、「患者さん中心の医療」が実践できるように工夫を凝らしてあります。加えて、石川県における高度専門医療機関として、最新の高度医療機器のみならず、目に見えない人材教育・病院組織・システムなどを含む高度医療を行うために必要な様々なソフト面の改革をも合わせて行いました。これからも、県民や地域医療機関の方々に、今以上に信頼される病院となることを目指し努力してまいります。

急速な少子高齢化による労働力減少社会の中で、一定の経済成長を維持するために「一億総活躍社会」や「働き方改革」などの労働環境整備政策が強力に推し進められています。特に運送業、外食産業、小売店業、広告業界、マスコミ業界などにおける、劣悪な労働環境での過重労働やサービス残業などの実態が明らかになるにつれ、「働き方改革」は安倍内閣の重要政策の一つとなっています。政府は働き方改革実現会議を開き、時間外労働の上限を原則月45時間、労使が合意した場合は特例として月平均60時間（特に忙しい月は100時間未満）とすることを盛り込んだ「働き方改革実行計画」をまとめました。人手不足が深刻な運送、建設業界への適用は、改正労働基準法の施行後5年間猶予することとしましたが、すでに運送、建設業では週休3日制の導入を始めとする様々な働き方改革が既に実行されていると報道されています。同様に長時間労働が問題となる医師に関しては、「応召義務」「学会へ参加や研究が研修業務」などを含めた多くの問題がもたらがったため、早急な対応は先送りされることになりましたが、2019年3月末までに結論を得ることになっています。

振り返ってみますと、私が金沢大学第一外科に入局した約40年以上前には、「若手医局員は仕事が終わっても、12時には家に帰るな。勉強しろ」とは言わないが、酒を飲んでいてもいいから医局にいる。土曜・日曜日にも患者さんは苦しんでいるのだから、回診は当然だ！」と先輩から言われたことを思い出します。私自身はバカまじめにこの言葉を守ったわけではありませんが、その頃には「患者さんを救いたい」という強い思いが医師であればあるほど、自分自身を犠牲にしなくてはならず、大学病院に勤めるとはこういうことだ」と思っていました。このようにな考え方は第一外科だけではなく、金沢大学の全医局が同じように考えていたように思います。

しかし、時代は大きく変わりました。小児科医や新潟市民病院での研修医の自殺をとりあげるまでもなく、医師の平均労働時間は週70時間を超えており、明らかに働き過ぎと言えます。医師の数は徐々に増加しているにも関わらず、勤務時間の短縮が進まない原因は幾つも挙げられています。しかし、このままの状況が続けば、医師の仕事量は今後も増え続け、医師の増員は必須となると思います。医師増員により「医師の質が低下する」という見方もあります。質の低下を招かないように養成することは不可能ではありません。現に今の若手医師は極めて優秀で、私が若い頃と比べると雲泥の差です。医師不足の地域、診療科において、患者の安全が脅かされ

れている現状を考えれば、医師増員は患者の安全に資すると思います。

医師数の増員は、病院経営者には頭の痛い問題と言えます。この問題解決のために、医師の労働に裁量労働制を導入しようという動きも出ていますが、問題解決の方向性が違っていているように思います。この考え方の根底にあるのは、勤務医の過酷な労働状況を良くしようとするのではなく、医師の賃金削減だけが目的であるといえます。裁量労働制というのは、労働に見合った賃金が支払われる場合に、労働時間を「労働者の裁量で」長くも短くもできるという制度ですが、勤務医の仕事はこの形態に当てはまる業務ではないと思います。勤務医の仕事量や労働時間はその時の受け持ち患者の病状によってきまり、自分自身では決定できないというえ、医療の値段は国が決定し、医師個人の判断で医療費を決定できません。労働時間が常に40時間を超え、その労働の値段も自分自身で決定できない現状で裁量労働制を導入するのは、「過剰労働の強要」と言えると思います。

今後の日本の医療をさらに良くするため、若い医師が働きやすい労働環境を整備することが必要だと思っています。そのためには、医療は聖職ですが、勤務医は人間であり労働者だという事実を、患者さんに理解してもらう努力を重ねていくことも大事なことだと思っています。



サート出演や介護施設への慰問演奏を楽しんだり、ダイビングを始めて金曜日の最終サンダーバードで実家に帰るふ

りをして、和歌山の海でダイビング三昧、濡れた水着を実家へのお土産にして日曜日の最終サンダーバードで金沢に帰ったりと、プライベートも充実していました。

こんな私が開業を決意したのは、2016年1月に40歳の高齢で初の妊娠をし、ふと夫婦で今後を考えたとときです。慣れ親しんだ内灘で、クリニックの承継開業することとなり、同時に石川県立中央病院で看護師をしていた夫が夢であった訪問看護リハビリステーションOHANAを立ち上げました。お互い仕事はまだですが、よき理解者が近くにいる安心感をもって頑張っています。

プライベートでは、1歳になった息子の初めての育児に翻弄され無我夢中の毎日ですが、気付きの毎日でもあります。両家の家族が全面バックアップ体制でサポートしてくれており、頭が上がりません。今は趣味を楽しむ余裕もありませんが、息子の成長に合わせ、迷惑がられない程度に便乗して、若さをキープできればなんて考えています。

行き届かぬところも多々ありますが、今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

自己紹介

医療法人社団 田中医院
田中 妙子



皆さん、はじめまして。医療法人社団 田中医院の田中妙子と申します。当院は開業32年の耳鼻咽喉科クリニックです。これまで父、博院長が内灘町向陽台で開業しておりました。2017年4月1日に常勤となり、早半年が経ちました。

2017年正月に父が倒れ、閉院危機のため2月中旬に急遽医院を継承することになり、3月後半に過労による肺炎で人生初の入院、退院後すぐの2017年4月1日に開業して、あっという間の半年でした。

本来であれば、きちんと御挨拶、御報告すべきところ、全く準備ゼロでひっそり開業し、日々の診療に邁進しておりました。遅くなりましたが、この場をかりて御挨拶申し上げます。

今日まで医院を開けることが出来たのも、多くの方に支えられてのことです。日々、感謝の気持ちでいっぱい、診療出来る喜びを感じています。ありがとうございます。

今では徐々に体力も戻り、これまでの病院勤務と違い、日の光を浴び、人間らしい生活をしながら、小さなクリニックで出来ることを少しずつ増やしている状態です。

毎日通ってくださる患者さまのためにも日々より良い医療をお届け出来るように精進していきたいと思っています。

全く告知もなく先生が変わった

ため、患者さまが診察室に入ると、皆さんびっくりされます。受付で「先生、変わったんか!」と皆が聞いてくるので、スタッフが私の紹介冊子を作ってくれました。その名も「たえちゃん先生のあゆみ」今回は紹介も兼ねて、四コマ漫画風に編集しましたので、ご覧ください。ホームページは現在準備中ですが、フェイスブックを日々更新しております。合わせてご覧ください(田中医院 耳鼻咽喉科 内灘町で検索ください)

私が常勤となり、半年が経ちましたが、田中医院は閉院した、父が亡くなったとのうわさがあり、このまま継続出来るのか不安いっぱいです。また私自身も10年ぶりの石川県での勤務で分からないこと、慣れないことがたくさんあります。特にレセプトは県によって微妙に違うため、温かくご指導いただければと存じます。

少しでも地域医療に貢献できるように、地域になじめるように頑張ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



わかば会の皆様方へご挨拶

医療法人社団 村田医院
院長 村田 健

1. はじめに

昭和38年、当初は内灘町大根布で開院した当医院（内灘町鶴ヶ丘）は、地域の心のよりどころとなることを目指し「常に患者様の立場で」をモットーに、先代の父が診療を行っておりました。18年前から私が院長を務め、2代にわたり計54年間多くの方々に来院していただいております。

私は診療を行うにあたり、特に以下の3つのことを心がけています。

- 患者様がなんでも相談できる、来院・会話のしやすいアットホームで明るい雰囲気作り
- 乳児からお年寄りまで、幅広い疾病に対応
- スムーズな病診連携と在宅医療の実践

これらを私の主軸とすることで、頼ってくださる患者様へ誠意を持った医療を提供できると考えています。



村田医院スタッフと
院内待合室

2. 私の趣味

① 音楽

この原稿依頼が届き、しばらく何を書こうかと迷いましたが、趣味の話を少し紹介させていただきます。

15歳から手にしたエレキベースは、52歳の今に至るまで続くもっとも長い趣味であり、このエレキベースを通じて、県内外ならびに海外の音楽仲間との交流を築くことになりました。現在、結成から14年目を迎えるmomoholic（モモホリック）



momoholicと
ベースを弾く私

は、ロンドンで音楽活動をしていたボーカルのmomo（もも）を中心に、気のおけない仲間たちと県内外、あちこちで楽しく演奏しています。

② ネコ、アクアリウム

私は子供の頃から動物が大好きで、現在もたくさんのネコ達と暮らしています。世界で一番大きくなるといわれるメインクーンが3頭、左右の目の色が異なる珍しいオッドアイの子もいます。クリニックから帰った私を迎えてくれるニャンズたちの愛くるしさは、一日の仕事の疲れを吹き飛ばしてくれます。

当院には私の趣味が高じて、熱帯魚の水槽がたくさん並んでいます。特に待合室の自慢の150cm水槽には、か



村田家のネコたち



自慢のスペシャル水槽

わいらしくカラフルな魚やエビたちが飼育しており、子供からお母さん方、おじいちゃん・おばあちゃん方のみんながほっこりと笑顔で眺めてくれます。

3. おわりに

私は医者になって20年になります。毎日私を頼って来院して下さる患者様に対して、誠意を込めた医療提供を日々心がけています。これは、毎日私の仕事を支えてくれる優秀で献身的なスタッフのみんな、諸先輩方、後輩たちのご協力、そして最愛の家族の支えによるものとも思っています。この場を借りまして皆様への感謝を伝えさせていただくとともに、これからも地域のみなさまの幸せと健康のために、微力ながら貢献できればと考えておりますので、どうか変わらぬご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

耳鼻咽喉科はまなすクリニック 寺口 奏子

2017年4月に宮崎耳鼻咽喉科医院を承継し、耳鼻咽喉科はまなすクリニックを開業いたしました。

大阪府で育ちましたが、石川県は母の出身地であり、私の出生地は石川県大聖寺です。石川を身近に感じていたことが縁で金沢医科大学に入学しました。卒業後はそのまま母校の耳鼻咽喉科に入局し、約15年間お世話になりました。宮崎先生とは、医局の先輩後輩にあたります。

勤務時代は、鼻副鼻腔疾患の手術治療や小児耳鼻科を専門としていました。ちょうど私が鼻副鼻腔手術に携わっていた頃、いわゆる「蓄膿」である好中球炎症主体の慢性副鼻腔炎とは異なる、難治性で術後の再発率が高く指定難病

新会員紹介

にもなった好酸球性副鼻腔炎がトピックでした。三輪教授のご専門である嗅覚障害がほぼ必発なのも特徴で、嗅覚外来を頼って県外からもたくさんの患者さんが受診され、多くの症例を経験する機会に恵まれました。また医局は家族のような少人数の時代もあり、専門以外にも頭頸部腫瘍から中耳手術まで、幅広く携わることができました。その忙しい勤務の合間をぬって、和太鼓サークルに入り市民コン



祈り (ボロブドゥールのレリーフより)

金原皮膚科医院 金原 武司

2年前、念願のインドネシア・ジャワ島にあるボロブドゥールを訪れました。一千年余前に建造された世界最大の仏教遺跡といわれ、大乘仏教を具現したという巨大な石造建築物には圧倒されました。とくに回廊部の壁面にはブツダの物語や数々の仏教説話を現す精巧なレリーフが延々と続き、その優美な姿に感動しました。絵は浮き彫りの中で静かな祈りの面影を感じさせた麗人を写し描いた小品です。ご批判下さい。

河北都市医師会の主な行事

(平成29年4月～平成29年の12月末まで)

1. 理事会・総会

平成29年4月19日(水) 第1回理事会
 5月17日(水) 第2回理事会
 6月3日(土) 平成29年度定時総会・懇親会「河北亭」
 6月21日(水) 第3回理事会
 7月19日(水) 第4回理事会

8月23日(水) 第5回理事会
 9月20日(水) 第6回理事会
 10月18日(水) 第7回理事会
 11月15日(水) 第8回理事会
 12月20日(水) 第9回理事会

2. 学術研修会

【河北都市医師会学術講習会】

平成29年4月12日(水)
 演題：「「腹膜透析・在宅血液透析の実際」
 講師：国民健康保険 小松市民病院
 内科部長 竹田 正廣 先生

平成29年5月10日(水)
 演題：「実臨床から考える、動脈硬化性疾患における
 抗血小板剤・抗凝固剤の使い方と消化管傷害対策」
 講師：金沢医科大学 心血管カテーテル治療学
 准教授 土谷 武嗣 先生

平成29年6月14日(水)
 演題：「骨粗鬆症と生活習慣病の危険な関係
 ～健康長寿を見据えたトータルケアマネジメント～」
 講師：帝京大学ちば総合医療センター 第三内科
 教授 岡崎 亮 先生

平成29年7月12日(水)
 演題：「認知症診療のコツとポイント、
 ～リバスチグミンパッチの有用性と安全性～」
 講師：福井大学 神経内科
 科長・准教授 濱野 忠則 先生

平成29年8月9日(水)
 演題：「最近の脳卒中治療～てんかんを含めて～」
 講師：金沢脳神経外科病院
 副院長 山本 信孝 先生

平成29年9月13日(水)
 演題：「糖尿病と神経学」
 講師：金沢医科大学 神経内科学
 准教授 真田 充 先生

平成29年10月11日(水)
 演題：「高齢者高血圧と認知症」
 講師：金沢医科大学 高齢医学
 講師 入谷 敦 先生

平成29年11月8日(水)
 演題：「便通異常の診療～最近の話題」
 講師：金沢大学附属病院 消化器内科
 助授 北村 和哉 先生

平成29年12月13日(水)
 演題：「心房細動の病態と治療について」
 講師：金沢医科大学 循環器内科学
 准教授 藤岡 央 先生

【金沢医科大学病院学術交流会】

平成29年6月22日(木)
 演題：「最新の肺がん」
 講師：金沢医科大学病院 呼吸器外科
 教授 浦本 秀隆 先生

【「救急医療週間」研修会】

平成29年9月7日(木)
 演題：「子どもの救急 ～急病の対応と事故予防～」
 講師：石川県立中央病院
 副院長 久保 実 先生

3. 会員親睦会

平成29年 5月14日(日) 河北都市医師会ゴルフ親睦会
 平成29年 9月 2日(土) わかば会 「辻家庭園」
 平成29年10月 9日(月・祝) 河北都市医師会・金沢医科大教授会ゴルフ親睦会

編集後記

編集の不手際で発刊
 がかなり遅れてしま
 いましたが、今回も無
 事にわかば会誌を皆さ
 まにお届けできました。
 一重に投稿頂いた先
 生方のお蔭です。これ
 から定期的に発刊でき
 るよう皆様の御協力を
 お願い致します。なお、
 紙面の都合から一部の
 記事が見にくくなりま
 した事をお詫びいたし
 ます。

会誌編集委員…石倉

金原 河北 沖野 紺井
 拓郎 公二 勝利 惣一 直敬

